

シユエリー

物流に進出

オーティーエス(OTS)は03年には、業界で初めてシユエリー物流に進出した。客であるパレール企業の商品保管、入荷・出荷までの流通加工はもとより、輸入商品(インポート)の検品・検針・洗濯ネット付け・下付けなどの仕上げ加工、ブランドネット付け、ファッション物流全般の業務を提供してきたが、シユエリー物流、ネット販売支援、品質管理(QC)、物流システムにまで業務を拡大した。

10年前に「新商品」としてシユエリー物流を手掛けた。シユエリーのアウトソーシングは物流業界で初めてです。取り扱いは消費者の問い合わせまで引き受けるアフターサービスや、修理工房を作って修理出来るようにするなど複雑な内容ですから、現在他社の参入はありませんが、修理からアフターサービス、セキュリティ、社員教育までお任せしています。QCサービスはインポートの取り扱いが多く、縫製検品から品質管理までの要望が多かったのが始めました。今はこの企業でも



歩み

とともに、その役割が変化するというのも「いろいろなことをやってもいい」という二つの考えがある。常々新しいことを先駆けておこなう。会社の売上高は一気に大きくなるのは大変ですが、とてもやりがいがあります。変化に対応した新しい時代のアウトソーシングを構築していくため、とりわけ、情報システム関連投資など質の面で

のレベルアップにも力を入れていく考えです。

経営戦略では小さいながらも常に新しいことを先駆けておこなう。会社の売上高は一気に大きくなるのは大変ですが、とてもやりがいがあります。変化に対応した新しい時代のアウトソーシングを構築していくため、とりわけ、情報システム関連投資など質の面で

は起業した時から、パートが主流になる予感がありました。ファッションには四季があるのでも、繁忙期と閑散期の差が激しい。パートは出勤調整がきついが、物流加工業務を社員が行うのは人員、コスト的にも無理はない目に見えていました。東京・江戸川区の葛西に物流センターを作ったのは地下鉄東西線が開通し、都心に近いのでヘッドタウン化し、人を集めやすかったためです。

創業5年目には社内公募により、パートを「パティ」の呼称に変えました。パートナリー時代の略で、響きもよく好評で、23年目に入り、定着しています。パティは自分で勤務時間を調整できるし、1年契約の契約社員や、社員にもなれます。定年は60歳ですが、パティは65歳まで働けますし、特殊な技術があつて働く気がある人の中には74歳で働いている人もいます。当社には優秀なパティがいっぱいいます。パティへの特別な教育も色々な形でやっています。パティのやる気を引き出し、動機付けをし、会社との間にしっかりとした信頼関係を築く人事管理が不可欠です。

人材育成では、委員会制度も成果を挙げています。SD、CS、親睦、広報、社内研修、Pマーク、安全衛生の七つの委員会があり、全社員がどこかの委員会に参加し、自主的に運営しています。社員が自分たちでやりますという状況で報告しています。広報委員会では毎月、社内報「オープンハウス」を発行し、お客様にも配布しています。OTSの物流業務はこうしていますとか、X線検針や修理、染み抜きはこうやっていますというところが分かります。発行以来、10月号で46カ月になりました。これからも、人材の育成に力を入れて、お客様に喜ばれ働く人たちが喜びを感じる「小さくても光る、魅力ある企業」をめざして業務を進めていく考えです。

下

オーティーエス会長 田中 洋さん



田中洋会長(右)と田中優一郎社長。13年11月、本社で

が「お客様の成功や発展に貢献していく」ミッション・ビジョン・サポーターです。経営方針では5S(あいさつ、整理、整頓、清掃、しつけ)を徹底しています。人材の育成では仕事上の能力だけでなく、5Sで社会人としての初歩的な教育にも力を注いでいます。

労務管理で

06年10月、会長に就任し、社長を長男の優一郎に引き継いだ。

経営理念のほかに重視しているのは事業の継承です。会社の存続は働いている人や取引先がどう幸せになつていくかが基本です。私は44歳の時に社長になり20年間務め、35歳の優一郎に社長に就いてもらいました。私は日頃から、経営トップの心づかめが少しでも衰えた時が社長交替の時だと心に決めておりました。実は社長交替の1、2年前には体力的に無理が利かなくなり、勘も鈍くなったのを

感じていました。一方、優一郎を社長に決めたのは、本人のやる気と成長を私なりに見極めて判断しました。

私も通つてよかったので、優一郎に受贈を勧めたのが「後継塾」(三条彪代表)です。私から教えられなかった社長業のイロハの他、多くを学び今も継続しています。親子の相性もよかったです。私が一番動きがよかったのは運送会社時代の30代後半でした。全然疲れを知らず仕事を楽しんでいました。優一郎も今42歳で脂が乗つて、ガンガン働いています。我が社は現社長とごともに心豊かに生きてくれています。私は自立せず静かにより長く進化して行く会社を築き見守っています。

希望としてはこんな立場でもないのですが、元気なうちは、創業した会社に関わりたいと願っています。社員の成長分は何にも増して喜みます。創業10年目からは、そろそろセンター長になる者も出てきました。今年も前途有望な若者を採用しました。我が社は創業から常にお客様の声を聞くことを第一義としてビジネスモデルを変革、発展させてきた会社です。「お客様の要望を徹底して実現するファッション物流業」に終わりはなく、挑戦は続きます。敬称略

(次回は大阪文化服装学院理事長の森慈郎さんです)

しあわせの経営理念に

常に新しいことと先駆けて

常に新しいことと先駆けて